

ふくしま農業女子ネットワーク 農女びより



イタヤカエデの樹液を使った自慢の六次
化商品をイベントでPRする佐藤さん

◆ふくしま農業女子ネットワーク（愛称：百笑一姫♡Fukuがある）
農業女子同士の交流・連携を深め、技術の向上を図ろうと、県内の女性就農者や就農希望者65人で構成。福島民報社をはじめ、県内の30企業・団体が「応援団」として登録している。農産品を使っ

た加工品の共同開発や情報発信、経営力向上、販路拡大などに連携して取り組む。メンバー、応援団となる企業・団体を随時募集している。URLは<https://www.fuku-girl.jp/>

問い合わせは事務局
県農業担い手課 電話02
4(521)7340へ。



さとう あきこ
佐藤 昭子さん（西会津町）

「メープル」商品開発

西会津町で農業女子になって17年目になります。東日本大震災前はシイタケやキクラゲなどキノコの生産農家をしていました。震災後はイタヤカエデの樹液採取に取り組み、放射性物質モニタリング検査の結果、下限値の1/10を下回っていることを確認し、商品化に挑戦。樹液をボトルに詰めた「メープルサップ」をはじめ、「メープルサイダー」「メープルソーダ」「メープルウォーター」などを開発し、販売しています。

樹液の存在は日本ではまだ、あまり知られていませんが、「樹液のある暮らし」を広めたいと思っています。海外では樹液を使用したドリンクや化粧品、せっけんなどが販売さ

れています。イタヤカエデの樹液は天然ミネラルが豊富で、人間の体液と同じpH7前後。自然に体に染み渡っていく理由の一つかもしれません。

私の商品づくりのモットーは「私たちの体は、私たちの食べたものでできている」です。前回のコラムでも書かせていただいたように、農業は生命産業です。体に悪いものをつくり、販売し、人さまの体に入れては、絶対にいけないと思います。無農薬や低農薬、無添加、または最低限の添加物、厳選された原材料を使い、現代の世界のトレンド「Less is more（少ないことは豊かになる）」を実現しています。

農業はその地域の看板を背負っている職業です。国産、福島県産、会津産、西会津産、そして私の住む奥川地域産。地域の誇りをもって世界に販売していきたいと思っています。まだ、県内の販売が大半ですが、販路を首都圏、世界へと広げていきたいと思っています。「樹液のある暮らし」の普及を目指して。

◆プロフィール◆ 東京都出身。中学校美術教師を経て、2002年に就農。2010年法人化し「株式会社キノコハウス」の代表となる。コシヒカリの栽培やイタヤカエデの樹液採取、六次化商品開発も手掛ける。道の駅や百貨店、直売所、県内のホテルなどへ出荷している。野菜ソムリエ、薬草ガーデンマスターの資格を持つ。